

ちょっと気になるデータ解説

日本における外国人人口の動向

日本における外国人人口およびその労働力人口は、近年増加しているといわれる。ここでは、総務省の国勢調査報告などの統計の数字を確認し、併せて、厚生労働省の人口動態統計特殊報告などから、外国人人口の増減に関するデータを紹介する。

国勢調査報告によると、2005年の日本における外国人人口の総数は140万9千人（男性65万2千人、女性75万7千人）である。2000年時点では、総数115万7千人（男性54万3千人、女性61万4千人）だったため、5年間で25万2千人増加したことになる。

2005年の人口を主な国籍別にみると、韓国・朝鮮42万2千人（男性19万人、女性23万2千人）、中国32万3千人（男性12万6千人、女性19万7千人）、ブラジル17万8千人（男性9万9千人、女性7万9千人）、フィリピン11万5千人（男性1万9千人、女性9万6千人）となっており、女性が男性よりやや多いという全般的傾向に対し、ブラジル人男性が同国人女性より多いこと、フィリピン人女性が同国人男性より著しく多いことが特徴である。

このうち労働力人口については、2005年において総数が83万7千人で、2000年の72万7千人から増加している。性別では、2005年に男性が45万人（労働力率69.1%）、女性が38万7千人（労働力率51.1%）となっている。2000年には男性が41万9千人（労働力率77.2%）、女性が30万7千人（労働力率50.0%）だったため、5年の間に、男性の人数は増加したものの労働力率は低下し、一方、女性は人数、労働力率ともに増える結果となった。

2005年における労働力人口をさらに年齢（5歳階級）別にみると（表1）、男性では20～24歳層から40～44歳層までの各年齢層で労働力人口が5万人を超えており、女性では、20～24歳層から35～39歳層までの各年齢層で5万人を超えている。とくに20～24歳層では、女性が6万2千人、男性が5万1千人と、女性が男性を上回っていることが、15～19歳層を除く他の年齢層での、男性が女性より多い傾向と異なっている。

表1 日本における外国人の性、年齢（5歳階級）別労働力人口および労働力率

単位：千人

	年齢	総数	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65歳以上
2005年 労働力人口（労働力率）	男性	450(69.1)	10(30.7)	51(60.2)	71(70.6)	70(76.0)	63(80.7)	54(83.4)	39(83.5)	33(81.3)	27(76.0)	17(65.7)	15(30.9)
	女性	387(51.1)	12(33.2)	62(60.2)	65(56.6)	58(52.4)	52(52.0)	44(55.4)	33(58.0)	25(57.2)	18(52.5)	10(41.9)	9(15.9)
2000年 労働力人口（労働力率）	男性	419(77.2)	11(32.0)	44(69.8)	67(79.9)	70(84.9)	63(88.3)	46(90.5)	38(90.5)	32(88.7)	22(85.5)	13(72.8)	14(38.2)
	女性	307(50.0)	10(29.5)	47(63.5)	54(54.7)	48(47.4)	40(49.5)	32(55.1)	26(58.9)	20(59.5)	14(54.4)	8(41.8)	8(17.6)

次に、人口の増減に影響する動態面の現状を、主に平成19年度人口動態統計特殊報告「日本における人口動態－外国人を含む人口動態統計－」から確認する。同報告は、平成14年に次いで第2回目の取りまとめ結果であり、本年2月に発表された。これによると、日本における外国人の出生数（父母ともに外国人）は2006（平成18）年に1万2188人であった。このうち嫡出子（婚姻関係にある男女から生まれた子）9394人の父母の国籍をみると、両親とも国籍が中国の子が2505人、同じく両親の国籍がブラジルの子が1877人、両親の国籍が韓国・朝鮮の子が1527人と多い。

外国人の出生数および死亡数を過去に遡ると、出生数の増加が顕著である。出生数は、1985（昭和60）年に5798人（その前年までは「日本における外国人」の出生数に関する定義が異なる）であり、その後概ね増加し、1997年には1万2000人を超えて、以降その前後で推移している。これに対し、1985年の死亡数は4157人で、その後しばらく4000人台が続き、1992年以降5000人台で推移、2006年には5969人であった（2005年のみ6000人をわずかに超過）。

表2 人口の社会増減

単位：千人

年次	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
社会増減	13	-7	-28	-17	-4	2	38	34	-10	-82	-50	-13	14	38	-12	38	146	-51	68	-35	-53	1	4
うち日本人	-7	-23	-39	-54	-45	-30	-19	-7	-17	-76	-50	-35	-42	-2	-43	-50	66	-104	3	-77	-103	-60	-75
うち外国人	20	16	10	37	41	32	57	41	8	-6	0	23	56	40	30	88	79	53	65	42	50	61	79

資料出所：総務省「平成19年10月1日現在推計人口」（データは法務省「出入国管理統計」による）

日本では近年、人口移動の面でも外国人の増加が確認されている。総務省「平成19年10月1日現在推計人口」によれば、人口の社会増減（入国者数－出国者数）は、日本人の出国超過、外国人の入国超過の傾向が見られる。1985年以降の推移をみても、各年で外国人の入国超過数が日本人の出国超過数を上回っている（表2）。

（調査・解析部 主任調査員 吉田和央）